# ニットースイタ

第六卷　新年號

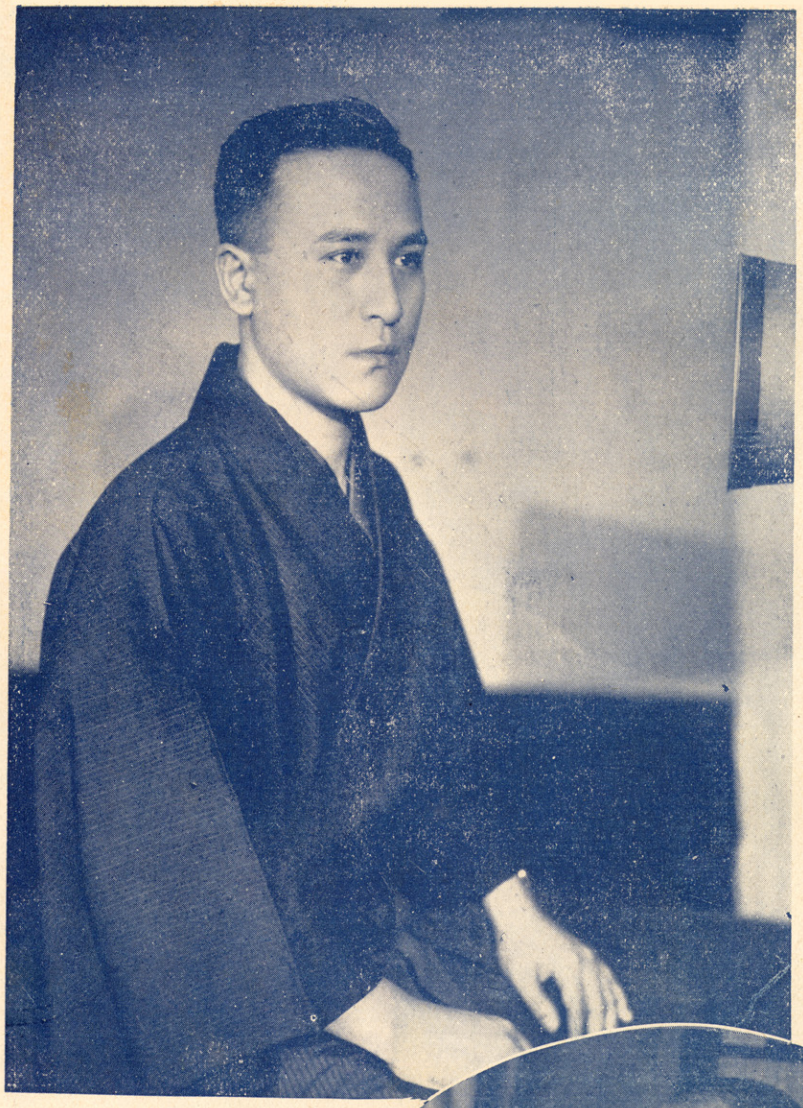
日東タイムス社

# 一月新譜一覽

長唄　越後獅子（三枚）　糸杵屋六四郎　吉住小三郎
松の緑（一枚）　上調子ワキ　杵屋六次
清元　北州（三枚）　糸　清元延壽太夫　清元榮壽太夫
淨瑠璃　太功記十段目（九枚）　上調子　清元榮次郎　豐竹古靱太夫　糸　鶴澤清六
淨瑠璃　堀川猿廻し（二枚）　糸　竹本越登太夫　竹澤團六　ツレ　竹澤團次郎
江戸小唄　空や久し、初雪、けさの別れ、いきな烏、止めても歸る（一枚）　美之助　爪彈田村てる葉
新ぢうた　黑髮（一枚）　富士松佐賀尾
新内　明からす（二枚）　あい豆
哥澤　わしが國さ（一枚）　芝勢、以金芝
浪花節　紫新小金井小次郎（三枚）　木村友衛
浪花節　櫻川五郎藏（二枚）　糸　吉田虎石衛門　東天紅
浪花節　伊達騷動の内　神並の返り忠（二枚）　浪花亭綾太郎
浪花節　乃木將軍（二枚）　東家燕太夫
浪花節　毛利小平太（一枚）　廣澤夏菊
小唄　博多節　島大（一枚）　富田屋喜久治　千代羽
小唄　お座附、三下り、二上り、都々逸、上り新内（一枚）　よし町　兼松
小唄　大春雨替　津唄繪（一枚）　三遊亭圓若　立花家橘樂
小唄　大博多津繪（一枚）　つばめ家駒之助
俚謠　大磯流節（一枚）　美代吉連
落語　初天神（二枚）　桂春團治
映畫說明　國定忠次（一枚）　伍東宏郎
箏曲　松近風景（一枚）　楯城護　上田芳憧
謠曲　熊江八野（一枚）　生一左兵衛

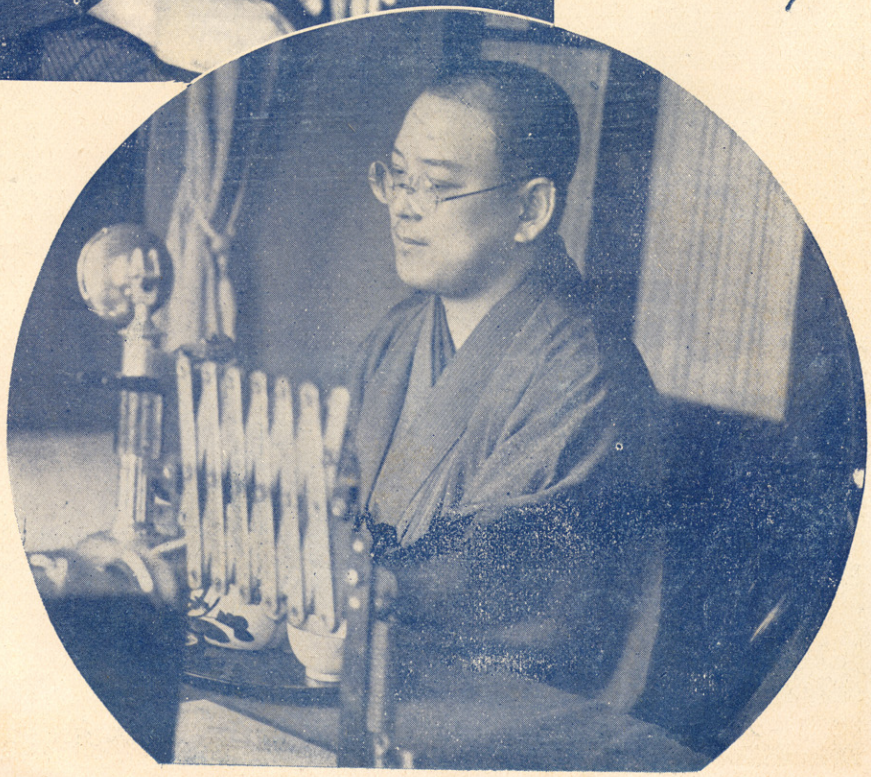
三曲合奏　新娘道成寺（一枚）　上田芳憧　富春勾當他二名
筑前琵琶　四條畷（一枚）　法明山　秋根旭惠
萬歲　滑稽鴨綠江（一枚）　花月家花奴
太神樂　滑稽安來節（一枚）　山崎登吉
太神樂　桃太郎の又平（一枚）　梅坊主一行
滑稽小曲　おかよ六、もぐ〳〵俺が女房、雨の音（一枚）　櫛木龜次郎
民謠　森の娘、螢草（一枚）　赤田龍子
書生節　月見草　ウエートレスの唄（一枚）　藤波笑聲
書生節　すたれ者　旅路の唄（一枚）　寺井金春
お伽歌劇　お正月遊び（一枚）　小島洋々
お伽歌劇　鼠のクリスマス（一枚）　澤文子　澤野菊子
お伽唱歌劇　日にやけ能因（一枚）　高井ルビー　岩間百合子　二村定一　千賀海壽一
童話　一寸法師（一枚）　兒童レコード協會　石橋恒男　岡野忠子
童謠　れんれのお國　栗と小栗鼠、蛙と小馬、落穗拾ひ（一枚）　小橋みち代
喇叭　陸軍禮式、分列行進、駈足行進（一枚）　歩兵第八聯隊喇叭手
ハーモニカ　ポツカチオ、セレナーデ（ドウリゴ）（一枚）　佐藤秀郎
シロホン　ウキリアムテル（一枚）　龜井湘南
ハーモニカ　曉の樂しき鍛冶屋鐘（一枚）　淺川福太
コルネット　アワーボーイズ（一枚）　ドブロユー
二部唱科白劇　關西婦人聯合會申合せ及會歌（一枚）　八木笑子　件奏　近藤秀慶　キツチースラピヤナ　ニーナスラピヤナ　アンナースラピヤナ
語學　英語の母音（一枚）　ハロルド、イーバーマ

ツバメ印ニツトーコレードー



## 觀世元滋氏

同氏の吹込みになるレコードは既に世の定評を博してゐますが今回は正月に因んだ番謠レコード「高砂」一番今曲が發賣せられました。



## 豊竹古靭太夫師

同師が鶴澤清六師の三味線でニットーレコードに吹込んだ太功記十段目は今度愈々正月新譜として賣出されました。

# 屠蘇のおくび

澤田柳吉

彼の有名な元祿花見踊を作曲した二代目杵屋正次郎と云ふ人は、餘程の天才であつた事も事實だが又一面非常な皮肉の人であつたさうで、尤も作曲の上から云つてもあの花見踊の中程の合の手の塲處などは彈いて仕舞へば何んでもないものを皮肉なハツキを使つてゐる爲に指の廻はらない人達は隨分に泣かされると云ふ事であるが、兎に角此の正次郎と云ふ人は非常な皮肉屋であり天才であり又相當多作家でもあつたらしい。そうして元祿花見踊は明治十二年に發表されたのだそうだからまだ近頃の人なのである。此の人の奥方が喜三梅と云ふ唄ひ手で又非常に美聲であつたさうだ。或る時此の正次郎先生奥方に向つて云ふのに貴樣も日本で一とか二とか自惚れて居る唄うたひだし拙者も日本第一の作曲家なんだから乃公が勝手に三味線を引くから貴樣も勝手に唄つて節付けてみろと云ふ事で合奏を始めた處が立派な名作が出來上つて仕舞つたと云ふ事だ。其處でそれに奥方の名前即ち喜三梅の梅の字を取つて『梅の樂』と名づけたと云ふ話がある。又此の人の作品としては例の筑摩川など云ふ著名なものもあるが他の人のやうに決して苦心などはせず大概車の上でこしらへて仕舞ふと云ふのだから其の樂才の豐富なのに驚かされる。

或る日のこと此の正次郎先生の秘藏弟子某が先生の宅で三味線を盛に彈いてゐた時に其の人が獨りつぶやいて『怎うも此の三味線の三の糸卷が甘くなつたとみえて下つて仕方がない三の調子が怎うも狂ふ』と云つたら正次郎先生『生意氣な事をほざくない一も二も三も皆んな狂つていらあ』と云つたさうだ、大家の惡口と云ふものは隨分徹底してゐるのに驚かされやう。これと同じやうな話が私達の方の畑にもある。

過般故人になられたケーベル博士此先生の事は餘り世間では一般的には知られてゐないが哲人で音樂學校で今洋樂界の一流どころは大なり小なり此の先生の薫陶を受けたもので過般異國で客死した久野女史なども可成先生には面倒をかけたものだ、此のケーベル先生が或るヴアヰオリンの先生の演奏會出演の下稽古を聽いて居つた。又その節他にも三四の教授達も集まつてゐて各々勝手な批評を下して『怎うもあすこの處がしつくりこないが指が惡いのかしら？其れ共あの人は耳が惡いのかしら？私の考へではあの人は弓の働かせかたに缺陷があるのだらうと思はれる』と云ふ風にひそ〳〵話をしてゐると先生曰く『御前達は何んて事を云つてゐるんだい！あの人は耳も指も手も決して惡い事はありやしないよ。たゞ(あたまが)惡いのだけさ！つまり馬鹿と云ふ事が惡いだけさ』と云つてケロリンとしてゐるものだからこれには居並ぶ惡口にかけては聞き馴れて漫性の區域を通り越してしかも免役になつてゐる筈の音樂學校の先生達もさすがに呆然と驚かされて仕舞つたと云ふ事だ、これなんかも日の惡い方ぢや正次郎先生に負けてはゐない、最も異國の作者達とくると斯んな話はざらにある。大分に古い事ではあるが今でこそ樂界のスピノザーだの評論界のヒームだのと云はれてゐる我國唯一の有名な伊庭孝先生も青年時代同志會に研究してゐた時分に無神論を高唱しだしたものだから學校側でも棄てゝ置けず放校處分をして仕舞つたがその結果先生今更牧師にもなれずさりとて立ちん坊にもなれず男妾にや痩せ過ぎてるし、仕方がないから役者にでもなつてみやうと云ふのだつたのだらう兎に角其の當時の新人達謂ゆる類は友をよぶの譬へ通り穩順ならざる御連中を大分集めて何とかと云ふ演劇團をこれ上げて何んでもかまわないから新らしい脚本を上演しやうと云ふ事になりショウの作チョコレット兵隊を伊庭が譯し自ら其れに出演して木戸錢のいる芝居を帝劇だつたか有樂座だつたかで公開した。其れが比較的評判が善かつたものだから各地到る處で打つて遠慮なく儲けてゐると突然英國に居たショウの處から確か時事新報だと思つたが其處へ宛てゝ手紙をよこした、其の文面に『親愛なる日本國、貴國に『イバッコ』と云ふ奴がゐて我輩の名作チョコレットソルジヤーを譯して盛んに上演してゐるさうだ、我輩に斷りもなく無斷上演はまことに怪しからん、けれ共仕方がない親愛なる時事新報今度若し彼の尊敬すべき(イバッコ)と云ふ奴に會つたら宜しく云つて置いてくれ』と云ふのであつた大家や天才には又一面に斯う云ふ茶氣慢々たる處もある。

## 目次

（第六卷第一號）

懸賞答案募集の問題と規定は本誌第十四頁にあります


屠蘇のおくび…澤田柳吉…一
杵屋六四郎…（名人傳）……新井六九…二
清元北州…清元延壽太夫…四
長唄越後獅子、松の緑……吉住小三郎…
小三郎箔屋町藝談……四
淨瑠璃太功記十段目……豐竹古靱太夫…六
浪花節櫻川五郎藏……吉田虎右衛門…
映畫就明國定忠次……伍東宏郎…八
——浪花節—琵琶——
お伽歌劇鼠のクリスマス……一〇
レコード文句集……一一
聽音記新聞……一三
落花集……一五

# 淨瑠璃 太功記十段目

吹込者 豊竹古靭太夫
糸 鶴澤清六

一間へ入りにけり、殘る雷の花一つ、水上けかれし風情にて思案投首しほるゝばかり、やう〳〵涙押しとゞめ、

母様にも婆様にも是今生の暇乞、此身の願ひ叶たれば、思ひ置く事さらになし、十八年が其間御恩は海山かえがたし、討死するは武士のならひと思し召し分けられて、先き立つ不幸は許してたべ、二つには初菊殿、まだ祝言の盃をせぬが互の身の仕合せ、わしが事は思ひ切り他家へ縁付きして下され、討死と聞くならば、さこそ歎かん不便やと、孝と戀との思ひの海、隔つ一間に初菊が、立聞く涙まろび出で、わつと斗りに泣出せば、はつと驚き口に手を當て、アーコレ〳〵聲が高い初菊殿。

扨ては様子を、アイ殘らず聞いて居りました、夫の討死に遊ばすを妻が知らいで何んとせう二世も三世も女夫ぢやと、思ふて居るに情けない、盃せぬが仕合せとは、あんまり聞こえぬ光慶様、祝言さえもすまぬ内、討死とは曲がない、わしや何んぼでも殺しはせぬ、思ひとまつて給はれと、歎けば、アヽコレこなたも武士の娘ぢやないか、十次郎が討死は兼ての覺悟、婆様に泣顔見せ若し悟られたら未來永々縁切るぞや、エヽ、サアとかう云内時刻が延る其鎧櫃こゝへ〳〵、アイ〳〵、サ早ふ時延る程不覺の元聞譯ないと叱られて、いとしい夫が討死にの、首途の物の具付けるのが、どう急がるゝ物ぞいのと、泣く泣く取出す緋縅の鎧の袖にふりかゝる、雨か涙の母親は、白木かはらけ白髪の婆、長柄の銚子蝶花、首途を祝ふ熨斗昆布、結ぶは親と小手脚當、六具かたむる三々九度、此世の縁や割小ざれ、猪首鍬形の、あたりまばゆき出立は、爽なりし其骨柄。

チヽあつぱれ武者振り勇しゝ、功名手柄を見る様な、祝言と出陣は一緒の盃サア〳〵早うアヽ目度い〳〵嫁御寮と、悦ぶ程たないや增す名殘り、こんな殿御をもち乍ら是が別れの盃かと、悲しさかくす笑ひ顔、隨分お手柄功名して、せめて今宵は凱陣をと、後は得云はず嗚ひしばる、胸は八千代の玉椿ちりてはかなき心根を、察しやつたる十次郎、包む涙の忍びの緒、しぼり兼たる斗りなり。

哀れをこゝに吹き送る、風がもてくる攻太鼓、氣を取り直しつゝ立ち上り、いづれもさらばと云ひ捨て、思ひ切たる鎧の袖、行方知らずなりにけり、ノウ悲しやと泣き入る初菊、母も操も顔見合はせ、婆様、嫁女可愛やあつたら武士をむざ〳〵殺しにやりました、ノウ初菊、十次郎が討死の出陣とは知り乍ら、なま中留めて主殺しの憂死恥をさちさうより、健氣な討死にさせん爲、祝言によそへて盃をさしたのは、暇乞やら二つには、心殘りのない様と、思ひ餘つた三々九度、婆が心のせつなさを推量しやと斗りにて始めて明す老母の節義、聞く初菊も母新も、一度にどつと伏し轉び前後不覺に泣き叫ぶ、襖押しあけ何氣なふ、つかつか出る以前の旅僧、コレ〳〵かみ様風呂の湯湧きました、どなたぞお這入りなされませと云ふにこなたは泣顔かくし。

チヽそれは御苦勞、さりながら年よりに新湯は毒、後は若い女子供マアお先きへ御出家からいか様、湯の辭儀は水とやら左様ならば、御遠慮なくお先きへ參ると立上れば、三人は涙押包み、奥の襖間と湯殿口、入るや月もる片庇、雫に荊取る眞柴垣、夕顔棚のこなたより、あらはれ出たる武智光秀、必定久吉の内に紛び居るこそ屈竟一只一討と氣は張弓、心はやたけ藪垣の見越の竹をひつそぎ鎗、小田の蛙の啼く音をば、とゞめて敵に悟られじと、差足拔足窺ひ寄り、聞こゆる物音心得たりと突込手練の鎗先に、ワア……つとたまぎる女の泣聲、合點ゆかずと引出す手負、眞柴にあらで眞實の、母のさつきが七轉八倒、ヤヽこは母人か、死なしたり、殘念至極と斗りにて、さすがの武智も仰天し只茫然たる斗りなり、聲聞きつけて驚け出る操、初菊諸共走り出で、ノウ母様か情けない此の有様は何事とすがり歎けば目を見開らき、歎くまい……歎くまい……内大臣春長と云ふ主君を害せし武智が一類、斯くなり果つるは理の當然、系圖正しき我家を逆賊非道に名を穢す、不孝者とも惡人ともたとへがたなき人非人、不義の富貴は浮かべる雲、主君を討て功名顔、たとえ將軍になつた迚、野末の小屋の非人にも、おとりしとは知らざるか、主にそむかず親に仕え、仁義忠孝の道さへたゝば、もつそう飯の切米も、百萬石に……增さるぞや、已れが心只一つで、しるしは目前是を見よ、武士の命を斷つ又も多いに、此のやうな引そぎ竹の猪つき鎗、主を殺した天罰の報ひは親にも此通り、鎗の穗先に手をかけてえぐり苦しむ氣丈の手負、

妻は涙にむせかえり……、これ見給へ光秀殿、軍の首途にくれ〳〵もお諫申した其時に、思ひとまつて給はらば斯うした歎きはあるまいに知らぬ事とは云ひながら、現在母御を手にかけて殺すと云ふはエヽヤ何事ぞいなう、…せめて母御の御最期に善心に立歸ると、たつた一言聞かしてたべ、拜むわいのと手を合し、諫めつ泣きつ一筋に、夫を思ふ恨み泣、操の鏡くもりなき泣に誠あらはせり、光秀は聲あらゝげ、ヤアちよこざいな諫言立、無益の舌の根動かすな、意恨重なる小田春長、勿論三代相恩

# 浪花節 櫻川五郎藏

吹込者 吉田虎右衞門
糸 東天紅

ましや、角力取りさんにや何處がようて惚れた稽古屋りの亂髪よいしよ〳〵で乘り込んだ、幡隨院身内が三百有餘人闕取迎ひと乘り込んで一同の方に取り卷かれ、角力場差して乘り込まば、品川新宿吉原より、櫻川への大人氣、五反幟や十反幟、立てた幟が縮緬で、風に吹かれてバッバッタ〳〵と勇しや、人で山なす見物中、御危ェ御免と會釋なし、

大きな體を下にして人で山なす其中を、御免〳〵と會釋なし、通るはてな、どなたか水をば汲む様な音がする、おさんどんの早や起きでもあるまい、立つて雨戸の間から見てあれば、六十路の坂を越えたる母親の姿、見るより五郎藏堪り兼ね、もつたいない忝けない、只さえ夢やぶられて寢られぬ、そなたの體、無理な願がけなされて體に障りてならんぞえ、俺の様な者でも悴だと思えばこそ、年老ひたるそんたの壽命までちゞめ、忝けない勿體ない、忝けない母上様俺がの力で勝ていでも、そなたの

の主君でなく、我謀を用ひずして神社佛閣を破却し、惡逆日々に增長すれば、武門のならひ天下の爲討取たるは我器量、武王は殷の紂王を討つ、無道の君をしいするは民をやすむる英傑の志、女童の知る事ならずすさりおらふと光秀が一心變ぜぬ勇氣の眼色、取付島もなかりけり、折しも聞ゆる陣太鼓、耳を貫く金鼓の響あはやと見ゆる表口、數ヶ所の手疵に血は瀧津瀨、刀を杖によろぼひ〳〵立歸つたる武智が一子、庭先きに大息つぎ、ア…親人々々是におはするやと、云ふも苦しき斷末魔、見るに驚く母親より娘は傍にはしり寄り、のういたわしや十次郎様、婆様と云ひお前迄この有様は情けない、お心慥にもつてたべ、やいの〳〵と取り付て介抱如在泣斗り、

光秀わざと聲あらゝげ、ヤア不覺なり十次郎、佇細は何と様子は如何に、具さに語れと呼はれば、ハツと心を取り直し、ア…親人の指圖に任せ手勢すぐつて三千餘騎、濱手の方に陣所をかため、今や歸國と相待つ所に、敵はそれ共白浪の體を押切つて陸路に漕付け…追々都へ驅せ登る、眞柴の軍勢ございなれと関をつくつて味方の軍兵縱横無盡に蹂立つれば、不意を打たれて敵は潰亡狼狽騒ぐを…追立てゝ追詰、愛をせんどゝ戰ふ中、後ろの方より大音聲眞柴筑前の守久吉の家臣加藤清正是にあり、逆賊武智が小わつばども目に物見せてくれんずと、云ふより早く太刀拔きかざし、四角八面に切立てられ瞬く間に味方の軍卒殘らず討死仕つり、無念ながらも只一騎立歸つて候と、息繼あへず物語れば、光秀いかりの髮逆立て、ヤア云ひがひなき味方の奴輩、シテ四方天但馬守は、さん候、四方天は目指は久吉一人と昨朝よりの一騎がけ亂軍なれば生死の程も慥にそれと承はらず、…親人の御身の上心にかゝり候故、末練にも敵を切ぬけ是迄落延び歸りしぞや、此所に御座あつては、あやふし〳〵一時も早く本國へ引取給へ、サ、早く早くと深手を屈せず父親を氣づかふ孫の孝行心、聞くに老母はせき兼て、アレ〳〵を聞きや嫁女、其身の手疵は苦にもせず極惡人の悴奴なる大事に思ふ孫が孝心、ヤイ光秀子は不憐にはないか、可愛いとは思はぬかやい、已が心只一つで、いとし可愛いの初孫を忠と義心に健氣なる討死でもさす事か、逆賊不道に名を穢し殺すは何の因果ぞと、せぐり苦しき老の身の聲聞きつけて十次郎、ヤ、そんなら婆様には御生害…遊ばしたか、

今生のお暇乞今一度お顏が見たけれど、アゝ…ア、もう目が見えぬ父上母様初菊殿、名殘りおしやと手をとつて、妹春の別れ愛着の道に引かるゝいぢらしさ、母は涙に正體なく、討死するも武士のならいと云えど情けない、十八年の春秋を及の中に人となり、いつ樂しみの隙もなふ弓矢の道に目をゆだれ、今朝の首途の其時には、母様今日の初陣に天晴功名手柄して父上や婆様に譽らるゝのが樂みと、ニッと笑ふた其顏が、わしや幻にちら付て得忘れぬと口説たて、くどきたつれば初菊も、ほんに思えば此の身程、果ない者が世に有ふか、とげて逢ふ夜のきぬ〳〵永き願ひでも勝てませう、それとは氣づかず母親は、願ひ濟して、ふるえ乍らに我居間の、後へ廻りて五郎藏も、水汲み浴びて神頼み、祈りまつるは成田山、不動明王の御利益で、どうぞ勝たして下さいませ、願ひはすめども心にかゝるは母者の事

時遲れてならぬ程にぼつ〳〵仕度くにかゝりませうぞえ、オウもう行きやるかこれ悴、勝たとつたえを聞くのを樂しみに、待つてゝくだんせと、ぶらりと出でたる表口まだ明けやらぬ朝まだき、ワ、雜踏の人の聲、中に加はる三四十人櫻川なる弟子角力が、今日で十日目取り組の、御師匠はんに勝をとらせにやならないと、思ふ心は弟子一同聲を揃えて角力甚句の勇姿に見物が、あれ見ろあれが西角力の櫻川、年が若くて色が白うて愛嬌があつて腰びくで、角力が手取りで色で迷はす苦勞人、西の溜に櫻川、相手の黑鷲三太夫も、天下直參旗下一同に取り卷かれ、角力場さして乘り込んだ、角力番數取り組で、

奴の呼ぶ聲に、かたへが櫻川には、こなた里鷲三太夫、聞いた見物一同が、是一番が見物だぞ、どちらが勝ても勝つた角力は土俵下さす命とるには違ひはないぞ、町人天下の幡隨院身内と、旗本一家踏の人の聲、中に加はる三四十人櫻川なる弟子角力が、今日で十日目取り組の、御師匠はんに勝をとらせにやならないと、思ふ心は弟子一同聲を揃えて角力甚句の勇

も名殘りのいゝなづけ、

二世を結ぶの枕さへ交はす間もなふ此様な、悲しい別れをする事はマアどうした罪か情けない私も一緒に殺してたべ死にたいわいなと身をもだへ、互に手に手を取りかはし名殘り涙の暇乞、見るに目もくれ心消え母も老母も聲をあげ、わつと斗に取り亂せば、さすが勇氣の光秀も親の慈悲心子故の闇、輪廻のきずなにしめつけられ、こたへかねてはら〳〵〳〵〳〵、雨か涙の汐境、浪立ち騷ぐ如くなり又も聞こゆる人馬の物音、矢叫の聲喧びすく手にとる如く聞こゆれば、光秀聞くよりつゝ立上り、アノ物音は敵か味方か勝利いかにと庭先のすれ木の松が枝、踏しめ踏しめ、よち登り、眼下の村手をきつと見くだし、和田の岬の弓手より迫々續く數多の兵船、間近く立たる魚鱗の備え千成瓢の馬じるしは疑ひもなき眞柴久吉、風をくらつて此家を逃延び、手勢引具し光秀を討取る衞と覺へたりと云ふより早くひらりと飛びおり、草履摑みの猿面冠者、イデ一ひしぎと身繕ひ勢ひ込んで駈け出せば、ヤヤ武智光秀暫らく待て、眞柴筑前の守久吉對面せんと呼ばゝつて、三衣にかはる陣羽織小手脚理も優美の骨柄、ゆうぜんとして立出れば、光秀見るより仰天し駈け戻つてはつたと白眼、ヤ、珍らしゝ眞柴久吉、武智十兵衞光秀が此世の印導渡してくれん、觀念せよと詰寄る光秀、

中を隔つる老鳥の子故に手疵屈せぬ老女、ノフ久吉様、我子にかはる此母も、天命遁れぬ引そぎ鎗、作りし罪の萬分一亡ぶる事も有ふかと、思ひ餘つた此最期、武智が冊は逆磔にかゝつて無慘の死を遂けしと、末世の記錄に殘してたべそれもやつぱり悴奴が可愛いさ故の罪亡し、うるさの婆婆に殘らんより孫と一緒に死出三途、ハア私もお供致しまする、いづれもさらば、おさらばと、未練殘さぬ武士の花も實もある此世の別れ、今ぞなくなりにけり、操の前も初菊もさらに詞も出ばこそ、あえ亡骸を押動かし、天にあこがれ地に伏して歎く心ぞいぢらしき、それを餘所に眞柴久吉光秀に打向ひ、俱に天をいたゞかぬ亡君のとむらい軍今此所で討ては義あつて勇を失ふ道理、諸國の武士に久吉が軍功を知らさん爲、時日を移さず山崎にて、勝負の雌雄を決すべし、如何に〳〵、チ、流石の久吉よく云つたり、

我も惟任將軍と勅許を請し身の本懷、一先都に立歸り京洛中の者共へ、地子を免すも母への追善、互の運は天王山洞が峠に陣所をかまえ、只一戰にかけ崩さん、首を洗つて觀念せよ、ホ……何さ〳〵ハ……、たとえ項羽が勇あるとも我又孫吳が秘術をつくし、千變萬化にかけなやまし、勝鬪上ぐるはまたゝく內、と久吉が詞はゆるがぬ大盤石、忽ち廻り小栗栖の土に哀れを殘すとは知らじしられぬ敵味方、にらみ別るゝ二人の勇者、二世をかための別れの涙、かゝれとてしもうば玉の、其黑髮をあえなくも切拂ふたる尼ヶ崎、菩提の種と夕顏の軒にきらめく千成瓢簞、駒の嘶き迎ひの軍卒、見渡す沖は中國より迫々入來る數萬の兵船、威風りん〳〵りんぜんたる、眞柴が武名假名書にうつす繪本の太功記を、末の世迄も殘しける。

手に死んでうせい、大膽不敵の神並は和助の死骸を後に見て、急いで戻つた仙臺坂、話が別れて惡人輩、勘左衛門の歸りを待つて酒盛りの、只今歸りまして厶います、和助はどうした、惡事を止めくれなぞと云ふて死にまして厶います、者共和助が死んだ良い氣味ぢや笑ふてやれ、ハ……

烏と云ふ烏は色の黑いのでは僧くまれないが口が惡くて人に憎くまれる、是は少部の惡口です、これへ參つて一杯呑め、有難う厶いますが、弟が血を吐いて死ぬのを見ては酒も呑まれませぬ、是れでお暇下さりませ、お先へ御免と神並は、一間へ這入り膝に手を置き首かたむけ、許してくれよこれ弟、そなたが最期にこの兄が、善心にたちかえると云はなんだのが氣にかゝる、和助が死んだから良い氣味ぢやとは、エーあんまりな御主人樣、可哀さうぢやと一言云ふてくれたとて驚も鳥も笑やせぬ、俺も死んだらかう云はれる、死んで惡く云はれるなら、俺はもう惡事は今日限り、やめて少部の惡事の密書、盜んで伊達安藝宗重か、白石の片倉小十郎樣へ願ふて出てお取り上げに預つたら切腹して、死出の山路の高いのも一緒に行くからと、神並の返り忠はこれにとゞめて一寸一息。

## 淨瑠璃 堀川猿廻し

吹込者 竹本越登太夫 竹澤團六 三味線

同じ都も世に連れて田舍が增の薄煙堀川邊に住居して後家の操も立月日琴三味線の指南屋も合の手縺れ氣もつれを保養がてらの藥風呂煽ぐも我を濕團扇目さへふ自由な暮しなりお鶴さん嘸ぞ待遠ふにあらふ哺そして何やらの淺であつたヲ、それ烏邊山アリヤじたい心中事會にでも彈くのならお前は女の方おしげさんは男の方とこうかけ合ひで諷ふがよいぞヘドレ〳〵お繁さんの代りにわたしとかけ合に唄ひませうと老手彈手もしばらしき女肌には自無垢や上に紫藤の紋中着緋紗綾に黑繻子の帶年は十七初花の雨にしほるゝ立姿、男も肌は白小袖にて黑き綸子に色淺黃うら廿一期の色盛りをば戀と云ふ字に身を捨て小舟どこへ取付島迚もなし、烏邊はそなたぞと死に行く身の後髮引く三味線は祇園町茶屋のやま衆が色酒に亂れて遊ぶさはぎ合あの面白さを見る時は「イエ〳〵それではとんと聲にしほれが無いはいな、あの面白さを見る時はとこふ唄ひなされや「アイアイあの面白さを見る時はヨシ〳〵染ぬそなたと某が去年の初秋七夕の座敷踊をかこつけて忽び逢ふた事思ひ出し「サヽ今日はマアそこまで〳〵精が出る程有つてきつふ手も廻り出したモウ〳〵何處で彈きなさつても恥かしい事はないぞえ聞いて笑顏の片男波「又明日といふ汐にお鶴は立つて歸りける

言葉にわつと泣き出だしそりや聞えませぬ傳兵衛さんお言葉無理とは思はれどそも逢ひかゝる始めより末の末迄云ひかはし互に夠を明し合、何の遠慮も內證のせはしられても恩にきぬほんの夫婦と思

## 涙花節 小金井小次郎

吹込者 木村友衛

生きて俠骨、こゝに小次郎の一席を下總船橋大神宮樣を、參詣致した上總木更津新宿の新兵衛親爺が裏山づたいで差しかゝつた鬼怒川と卷割の海岸端、右は見渡す大海原、砂つ原にと腰下して、取り出した煙草入、ドレ〳〵大神宮樣お詣りして此處まで來て喫む莫は一ぷく千兩、なんとも云えねえいゝ氣持ちだ、父つさん、オツ吃驚した、なんだ親方、何にも驚きなさるには及ばれえ、俺は決して父さんあやしい者ぢやござんせぬよ、お前樣は先刻船橋の大神宮樣を參詣してゐた、其間の內に豐州の小金井小次郎が無事に戻つて參りまし樣と此方は拜んで居なすつたが其の小次郎と云ふ人を父つさんお前は御承知かえ、知つてると云えば知つてる樣なものゝ、未だ俺は小次郎親分にお目にかゝつた事がれえだ、逢つた事のねえ小次郎が無事に戻ります樣、すまれえけれど父つさん其譯を一番俺に聞かしてくださる譯にはいきませんか、話して話されない程の事でもなし折角のお尋ねぢやまあ親方聞いてやつておくんなせえませ俺は上總木更津新宿の、新兵衛と云ふ者だが、去年嬢に患はれ、醫者よ藥よ加持祈禱と、手を更へ品かへしてゐたが、婆の病氣は癒られえ、ついには冥府の旅路となる七日七日が二七日三七日過ぎて三十五日や四十九日と、すまもした後が俺が又、看病疲れで床につく、始めの內は村人が、寄つてたかつてやれ新兵衛それ新兵衛と世話してくれるお方もあるけれど、やつぱり他人の寄り集り、仕方が無いから八王寺の、娘の處へ手紙を出せば、梨の礫で音沙汰はなく、親だと〳〵ぬかして居ても、やつぱり獸目かさあきらめて、居りましたる、丁度それから十日目に、ひよつくり女つ子から來た手紙、取ろ手おそしと開封して、中の文字をば見たなれば、涙で書いた沁み書き、親が病氣と聞いたから、直ぐ樣行つて看病はしたいけれ共お父さん、御主人樣に借があり、其借拂はにや立たしちやくれず、ましてやこれが一里二里なら、兎にも角、海を越したる木更津の出るにや出られぬ籠の鳥、來ぬと恨む父樣より、行くに行かれぬ、娘の心許してくれと書いてあつた其時にや、俺が如何にも惡かつた、許してくれよこれ娘と俺は陸乍ら娘にと、咤びしてゐたら丁度それから八日目に、ひよつくり女つ子戻つて來た、お父樣と云ふ聲に、俺は吃驚して、オ、われは娘、よくまあ無事で歸られた、どうして無事で歸つたゞと、尋れてみたら、お父さん喜こんでおくれ、今度據利龜屋へと宿り合せた、お客樣、豐州で名うての小金井小次郎と云ふ親分、娘が飯のお給仕に出た其時になんだか手前涙つぼろい、どうした事かと尋ふ物大事の〳〵夫の難義命の際に振捨てゝ女の道が亞物か、れられ實は斯うだと話をしたら、偉いぢやれえか其小次郎親分が、必ず共に心配するな、お前の借金俺が殘らず拂つてやると、娘が借りた借金をすつかり拂つてくれたのみならず、國え歸つたら父さんへ餞でも買うて持つて行けと持たしてくれた其の金が、一分や二分と違ふて、大前まとまる五兩金親子の者が豐州の方は此方かと、手を合はせて拜みました寢るにつけても親分へ足を向けては濟まないと、思ふちやみれど、尋れる小金井親分は、何所に居るやら其行衛さえも判らぬ事、此方に居やしれえか、彼方此方かと、ぐる〳〵廻つて一晩中寢やしれえ、おかげで體も助かりましたせめては國へ行つたならば樣子が判らうと留守は娘に預けておき、わざ〳〵豐州の小金井へ行つて尋れてみたなれば、尋れる小次郎親分は此の三月に暈嘩をして、兇狀持つ身の情けなさつた一人のおふくろ樣に勘當された小次郎親分は、五尺の體の置き場に困る、四尺九寸となりつまつた、兇狀持の身と聞きました、それ故是非共小次親分が無事に戻つて參りまする樣の、俺は拜で居た、ハ……まア親方笑つて下さるな、最前からの樣子をば傍で聞く身の小金井は、思はず落す玉の露、故郷の方に手を合はせ、それですつかり樣子が判つた、父つさん、なにまだ判られえだ、五尺の體の置き場に困り四尺九寸となりつまつた、兇狀持つ身の小次郎は、誰でもれえ俺だアレそれぢやお前が小金、靜かにしれえか、エッ、云つちやなんれえか、丁度時間となりましたで、餘りお長くなりますから先づは是にて預かる次第なり。

聽音記新聞

發行兼印刷編輯人　聽音記子

日本に於ける音曲界の

# 名人の名曲を發表した

## 日東蓄音器本年劈頭の新譜

### 延壽、小三郎、觀世宗家の顔合せ

毎年正月になると各蓄音器會社が競つて賣出しレコードの撰擇に苦心を凝らす、本年も例の如く各社が鎬を削つて發賣音譜のプログラム編成に努力を拂つたことだらうが、何と云つても延壽太夫、小三郎、觀世元滋と云ふ日本音曲界の三名人を把握してゐる日東蓄には太刀打ちが困難である、而も日東蓄では本年劈頭の正月新譜を第一回第二回の二度に分ち第一回には吉住小三郎の「越後獅子」「松の緑」を貫祿として同社が最近製作に着手した民衆本位の最廉價レコード十二枚を、第二回には清元延壽太夫の「北州」並に觀世元滋の謠曲「高砂」を主眼に古靱太夫の「太十」芝金の哥澤等四十八枚のレコードを發賣すると云ふ狀態で、斯くの如く完備した藝術的レコードが一時にツラリと列べられたことは、日東蓄としても未曾有のことであるから是れ以下の二流三流處の藝術家を擁して立つ他社が、日東蓄に追隨しようとしても夫れは蟷螂の斧に等しく到底實現し得べきことではない。

夫れと同時に近來流行してゐるラヂオの如き如何にその放送曲目の粋を緊集しようと焦慮しても、延壽、小三郎をしてマイクロフォーンの前に立たしむることは不可能なことなのである、何故是等二名人がラヂオの放送をしないかと云ふに、夫れはラヂオそのものゝ設備が不完全であるが故に自己の藝術を傷つけられることを恐れてゐるのである、是はラヂオの場合のみならず蓄音器の場合にも同様だつたことで、延壽、小三郎兩者がレコードに吹込みをするには日東蓄の完備した吹込技術を確かめた後初めて吹込を承認したのであつて、此の事は既に世間周知の事實である、其處で今日延壽、小三郎の至藝に親しく接しようとするには、直接是等名人の舞臺演奏に臨むか、日東蓄のレコードに依る他、何等の術が無い譯である。

**謹賀新年**

次號からは誌面の内容を充實するとか、刷新を計るから等と前觸れ許りが立派で、其の實、少しも言行の一致せぬのが兎角雜誌編輯者の通弊であります。

其處で私共は今後、只何かの刺戟が有る度に刺戟された丈の何ものかを誌面に現はして行き度いと云ふ事丈を申上げて置きます。

大正十五年一月元旦

日東タイムス社

## 觀世元滋氏の 高砂

### 脇能中の脇能物

「高砂」が謠曲二百餘番中の首位にあるは遍く人の知る處であつて、脇能と云つても社寺の靈驗を說く他の神事能と異り、夫婦和合、壽命長遠國土安穩等の意を述べ脇能中最も重きものとせられ、謠の位も極めて崇高にとり、長閑な中に聲緩みなく謠ふべきものなのである。

而して脇能は強く神々しいと云ふのが全曲を通ずる精神で三番目物なごのやうに脂濃くなくて、颯爽たる味に充ちて居ると同時に寸時も膝を寛がせぬと云ふ謹嚴にして清淨な感じのある處が特色である、又剛吟中の剛吟たる高砂は、曲が目出度く、文句が目出度く聲が目出度い其處で觀世流謠曲音譜會では正月をトして宗家觀世元滋氏に依り吹込まれた高砂一番全曲五枚續を發賣した。

## 吹込感想

# 琴曲レコードに就て

楯城護

近來蓄音器の家庭化に依つて、物質文明の實社會に立働く人々の荒みゆく心、或は生活の悩みを融和させる力の顯著な事は識者の等しく認める處となつた、從つて是等の人々の家庭の要求に適應した多くのレコードの製作されることは善ばしい事だが、私の遺憾とする處は私共の携つてゐる琴、三絃の音樂が此の方面に於て比較的輕視されてゐる事である。

我が國民性に據つて培はれ、正しい傳統を有ち組織に於ても邦樂中最も優たものとされてゐる琴曲音樂が、何故レコードとしてのみ其の發達が遲々としてゐるのであらうか、思ふに其の原因は琴そのものがレコードに吹込み難いからであつて、是に就而は各蓄音器會社が何れも研究腐心をしてゐたのである、處が最近に日東蓄音器會社の技術部が其の研究に見事成功し、完全な琴曲レコードを製作し得られる樣になつたので、當事者たる私は此の威大な技術的努力に對して滿腔の感謝を捧げずにはゐられないのである、と同時に日東蓄音器會社の斯うした技術の向上は琴曲界に取つても誠に喜ぶべく慶賀すべき事であつて、邦樂の普及發展を益々助長せられるものである。

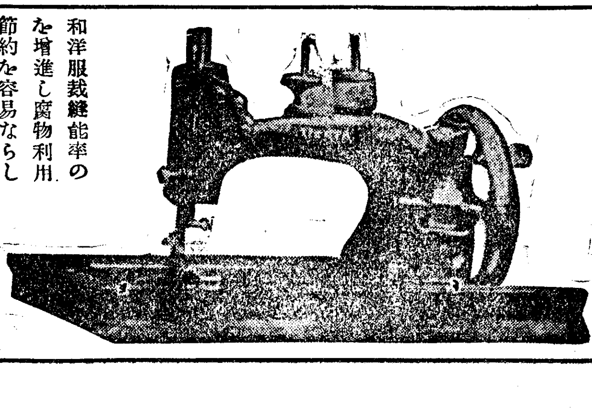
其處で同社から吹込みの依賴を受けた私は非常な期待と眞面目さを以て吹込みに赴むいたのである、そして今月同社から發賣せられてゐる「近江八景」及「松風」を初め他に數曲を吹込んだが、數日の後テスト盤を聽くに及んで其の出來榮の完全なのに驚嘆せずにはゐられなかつた、音色の如實に表現されてゐること音調が正確に再現せられてゐること等全く過去に於ける琴曲レコードに對比して隔世の感を覺えたそして其の一面に未熟乍ら私の努力が其の儘レコードに寫調せられたと云ふ善びもあつて同社が今後尙一層精進の歩みを踏みしめて、琴曲樂の家庭音樂としての眞價を廣く一般に普及せられん事を切に希望して置く次第である。

**賀正**

獨逸最新輸着品

**家庭用ミシン**

美麗なる蓋付、角刺定木、椽取器具
糸自由卷器具、其他十種附屬品付



和洋服裁縫能率の增進し廢物利用節約を容易ならしむ完全なミシン、機械の堅牢と精巧なるは獨逸製の特色今や獨逸の總ての家庭に常備され又獨逸各女學校教授用として好評嘖々

特價　金四拾五圓

大阪市北區堂島中一丁目
**婦女世界社代理部**
電話北五五五八番

# 顔で笑うて心で泣いて 辛い別れの「涙が光る」

## コルグスキー孃のロマンス

十一月廿一日の午後——神戸メリケン波止場の第三棧橋では四時に解纜する大連行の船が出帆の用意をしてゐる、邊りには船荷を積み込む人夫や乘船する人、それを見送る人達が慌しく行き來してゐる、棧橋の起重機は激しい軋音を立てゝ落ちつかぬ人々の頭を自棄に掠き廻す。

恁うした焦らだたしい雰圍氣の中にあつて、先刻から二人の若い男女が一等遊歩甲板の欄干に凭れて何か頻りに話し合つてゐる、二人共瀟洒な服裝をした異國人で、男の方は見送りに來てゐる人でゝもあるらしく出帆合圖の銅鑼が鳴り響くと女と力強い抱擁をして棧橋の方へ下りて來た、そして女は甲板に男は棧橋に佇んで、絶えず微笑を交し乍ら出帆の時を待つてゐたが、恁うした二人の顔には何時しか離愁の色が濃厚に現はれてゐた。

軈て出帆の汽笛は幽秋の空に物憂さうな餘韻を引いた、船と棧橋の間には徐々に距離が出來てゆく、此の時甲板にゐた女の手から彼等の愛を象徴してゐるもの〻嫋な眞紅なテープが投げられた、棧橋の男は手早くこれを受けとめてテープの一端に熱い接吻をした、暫くの間は田て行く船と棧橋の間に靈きぬ名殘りが惜まれてゐたが、穏かな海面に現はれた一脈の澪が消えてゆく頃、船の影も又遠く彼方の水平線の中に沒して仕舞つた。

その時棧橋に立つて悵然としてゐた男は、邊りを振返つて誰もゐないのに氣が付くと、淋しさうな顔をして大股にもと來た道を歸つて行つた。

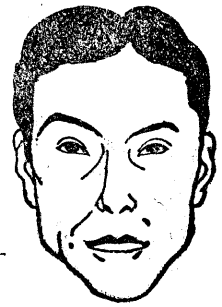
港の町の秋は黄昏れ時であつた。異境の地で恁うしたラブシーンを現出した異國の青年男女、女はニツトーレコードにソプラノの吹込をしたアルベルトロザノフ夫人の伴奏者コルグスキー孃で、男は露國ソビエツト政府の海外派遣音樂家レオニドセフチユーク氏であつた、二人はモスクワを旅出して日本に來るまで西比利亞の曠野の長い汽車の旅もハルピンの旅宿に於ても不思議と一緒になつた、そして日本へ來てからも矢張り一緒になることが多かつた。其の内に若い血潮の高鳴る二人の間には遂に戀が芽生えてゐた、そして二人の噂は神戸在留の外人間で非常な評判となつたけれ共二人が愛に憑まれて陶醉してゐたのも束の間で、ロザノフ夫人は大連での演奏契約の日が近づいて來たのでコルグスキー孃と共に出發しなければならなかつた。そして夫れを終ると一度モスクワに歸へることゝになつてゐるので、此の日の二人の別離は本當に辛いものであつたに違いない、因にシエフチユーク氏のことに就いては次號で又報導する。

## 神戸で最初の日東演藝會

### 定刻前締切の盛況

舊臘十一日午後六時より神戸楽樂館に於て、神戸では最初の日東蓄音器會社主催の日東演藝會が開催せられた。其の内分第一回の催しのことゝ、非常な人氣を博し當日は定刻の六時と云ふに既に滿員の盛況を呈し締切の歇むなきに到つた。

當日の番組は童話、ハーモニカ、渡花節、三絃童謡舞踊、新地唄、江戸千唄、義太夫等で、何れもニツトーレコードで馴染の深いもの丈に、非常に喝采を博した、殊にあい豆の新地唄と美之助の江戸小唄は新しい趣向の凝されたものなので、當日の白眉たる駒太夫の義太夫三勝半七と共に滿堂急霰の如き拍手を以つて迎えられ午後十時盛況裡に閉會した。



人相漫畫談

## 澤田柳吉氏

▼記者が畫伯の手から澤田柳吉氏の漫畫を受取つて直ちに天王寺町の澤田氏宅を訪問すると長唄三味線をペンペラペン〳〵と彈いてゐた澤田氏、相變らずの上機嫌で記者の示した漫畫を見て「こんな漫畫を書かれちや天晴れ天下の業平を氣取つてゐる僕の佑勞を下げるぢやないか、僕はイヤだよ」と異のない抗議を提出して、それから次第に澤田氏一流のダヂ氣分に滿ちた漫談が溪々として靈きるを知らずと云つた調子で湧出する▼其昔日本に於てピアニストとしてペートベンの難曲を朝飯前に云ふ凄腕は其の後彌が上にも銀えあげられ現在日本では氏を措いて他に是丈の技倆を持つピアニストは鳥渡見當るまい、こと程左樣に非凡な澤田氏の凄腕に近頃恁うした風の吹き廻しか三味線が操縱せられてゐるのである

▼記者が其の理を尋ねると「西洋音樂なんてものは詰らないから一つ日本音樂を遣らうと思つてゐるんだ、それも有りふれたものぢや仕樣がないから日本のジヤツ音樂を拵えて遣らうと考へてゐるんだ」と候々形勢が不穩になつて來るので「今に景だのワンステツプ三千歳と云ふ樣なものが出來る譯ですね」と記者は前哨を張つて置いて澤田氏の大阪に對する住み心地を尋ねてみた▼すると記者の豫期に反して大阪を猛烈に禮讃して尚慊らぬとぬつた具合「僕は震災以來大阪へ來てゐるが、全く大阪の人間は偉いれ第一文明人としての諸條件を完全に具備してゐる交通機關もその本質的使命を忠實に努めてゐる電車でも自動車でも東京の樣にノロ〳〵してやしない僕はモウ再び東京には歸らぬ積だ今になつて思ふと東京は田舎の新開地と云つた感じがするね」と何時の間にやら音樂の話には見向きもしないで贅六至上主義で口角泡を飛す有樣▼處で是には深い仔細が胚胎してゐると云ふのは皆樣も御承知の通り澤田氏は威大な酒の愛好者であつて美酒の前には全然無抵抗となつて仕舞ふ人なのである、だから清酒の本場灘に近い大阪にゐると何時でも生一本の銘酒にありつける關係上、此の味覺的魅力に引付けられて、否應なしに大阪を禮讃せずにはゐられないのである。


全国致る處の　樂器店に有り

リリカルエンホニコン出來！

複音二十穴 ¥7.00

本樂器の特徴は我國ハーモニカ界の革命者

佐藤秀郎氏吹込の日東レコードに依つて

確證せられり

▲▼▲　▲▼▲

# 誰にでも直ぐ出來る
# 新しい懸賞答案募集

締切大正十五年二月末日
發表本誌四月號誌上

| 賞品 | | |
|---|---|---|
| 一等 | ニットー號蓄音機新型五號 ニットーレコード黒赤五十枚 スワロー印蓄針千本 | 二名 |
| 二等 | ニットー號蓄音機新型四號 ニットーレコード黒赤二十五枚 スワロー印蓄針千本 | 三名 |
| 三等 | ニットー號蓄音機三號 ニットーレコード黒赤十五枚 スワロー印蓄針二百本 | 四名 |
| 四等 | ニットーレコード 黒五枚 赤十枚 | 五名 |
| 五等 | スワロー印蓄針二百本 | 千名 |

## 應募規定

一、答案は下記答案用紙に記載のニットーレコードのレコード番號に該當する曲種曲名吹込者の名前を解答記入して下さい

一、答案用紙は下記刷込みのもの及び是と同形式の自製用紙を使用して下さい。

一、答案用紙には條件として必ず大正十四年十二月より發賣のニットーレコードに添付してある日東蓄音器會社の小型圓形商標紙を貼付して下さい。

一、小型商標紙の貼付なきものは無効となります。

一、答案用紙には刷込新聞或ひは雑誌の名前を記入して下さい。

一、正解者多數の場合は抽籤を以つて入賞者を決定します。

一、宛名

大阪市住吉區上住吉町神社南門前
日東蓄音器會社懸賞係

| レコード番號 | 曲種 | 曲名 | 代表吹込者一人 |
|---|---|---|---|
| 一四二九 | | | |
| 一二四八 | | | |
| 一四〇〇 | | | |
| 一一〇〇 | | | |
| 一一〇七 | | | |
| 一八二六 | | | |
| 一二二八 | | | |
| 七二〇 | | | |
| 一二四二 | | | |
| 一一六三 | | | |
| 一六二二 | | | |
| 一三八八 | | | |
| 一三四四 | | | |
| 一三一三 | | | |
| 一三九〇 | | | |

此の場所へ貼付用紙を貼り着けて下さい

住所
姓名

新聞紙名　ニットータイムス聽音記新聞

# 落花集

（投書歓迎　端書に限る）

▼おゝ嬉しきことよ私達の希望は聞き届け得られた、レコードが出たと聞いただけでもぞく〳〵する吉住小三郎梓屋六四郎兩師長唄越後獅子あゝ早く手にして聞き度いものだ（京都研精會狂）

▼吉住レコード賣出しを新聞で見ました丁度一年振でしたれその間うがどんなに待遠ほしかつたでせ之から買ひに出かける處です取り敢えずお禮迄（大阪大川町T生）

▼哥澤の我物と更けて逢ふ夜の二曲は霜枯れの夜長の連々に聽くに持つてこいの好出し物と思ひました其曲の氣分が充分現はれてゐました芗爲枝さんの落ついた節廻しは毎度拜聽しても飽が出ません（大阪哥澤すいた同志會）

▼シウマンをシウマイと違へる老人ばかりが聞くのではないから洋樂レコードには作曲者の名を是非入れて欲しい日東の大手柄であつた日本交響管絃團のレコードには解説が付いて居た又モリスダンスや炬火の踊の樣に解説の要する程の管絃樂をどし〳〵出して欲しい（山口縣洋樂黨）

▼義太夫レコードに於て斷然他の追從を許さざる我日東よ東京のラヂオファン嗜好調査に依れば義太夫は地の音曲を遙に見下して堂々第四位を占めたとは實に愉快ではありませんか關西本場ならいざ知らず關東に於てこの一大快報に接した吾々義太夫狂は全く隨喜の涙を流した文樂を年に一度聞くか聞かれない吾々に取つてツバメレコードは實に内生活の糧とも云ふべきもの（千葉市　義太夫狂）

▼私は求めんとするレコードは先づこの落花集を見て始めて決定する事にして居ます何故なればこの頁で推賞されたるレコードにして未だ嘗て私を失望させた事がない

## 落語の梗概

先づお目出度うと申し上げます、扨吉例に依りまして桂春團治の落語「初天神」のあらましを。今日は二十五日初天神ぢやと云ふので頓馬なおつさん「嬶羽織出せお參してくる」と云ひました處近頃このおつさんの素振を怪しいと思つてゐる女房はおいそれと羽織を出しません「あんた何處へ行くれ」「初天神に」「嘘ばつかり艶つぽい行燈のかかつた天神さんやろ」「違ふほんとの天神さんや」と云ひ爭つてゐる時この親にしてこの子あからです其の中でも旭惠さんの扇の的と日東ジヤズのワラーワラーを紹介して下さつた方に對して深く感謝してゐる次第ですどうか此の後とも私の爲にいゝレコードを決定して下さい（紀伊　かほる）

▼日東レコードは愛燕家が註文したものを何時になつたら發賣して吳れるのだらう私は古馝太夫さんの義太夫レコードを首を延ばして待つてゐるのです壷坂以來隨分待つてゐるのですよ（古馝黨）

▼此二三ケ月は曲目が餘りに平凡でした所謂帶かず飛ばすといふのでせう、大飛躍の前には必ず足を屈しますからネ私はこの意味に於て大いに期待します小三郎や延壽を出す日東だ必ずや近き將來に於て斯界を震撼さす可き一大傑作を彗星の如く出現さすことだらうて（大阪モグラモチ生）

▼新ぢうたと云ふ名は餘り聞きませんでしたがレコードを聞いて始めて合點がゆきました、實にあい豆さんの聲はいゝ聲ですれ竹の緣と云ふやうな子供が學校から歸つて來て「父つちやん天神さんなら僕も連れてつてよ」とせがみつく女房大いに喜び「あゝ坊も連れてつて貰ひ」と双方より攻撃を受け事こゝに到つてはもう破滅とおつさん「よし連れてつてやる」と和睦を申し込み子供を連れて天神さんに行つた爲に非道い目に合はされると云ふ子供を中心にしました極無邪氣なお話、その子たるや春團治一流の舌先より生れ出る子供どんなにませた面白い子供でせうか例に依つて囃鳴物入りの賑かな二枚續きのレコード。

なんかは素適〳〵（東京地唄生）

▼伍東宏郎氏の映畫説明「小幡小平次」には全く感心いたしましたその脚色法又和洋管絃樂など申し分がない十誠以來の名レコードと思つてゐる（飯塚　あたみ生）

▼十一月の涙花節曾我兄弟は何度聞いても良い涙花亭綾太郎さんは良い聲だそして節廻が情味溢ふれて淨曲味を帶びてゐる同師のものを今後共出して下さい（日向高岡町五町落合兼政）

▼私は今迄に今度の琴曲六段程に良くはいつてゐるレコードを聞いたことがない大きくはいつてゐると云ふよりむしろ實物を聞いてゐると云つた方が早い琴曲好きの方に推奨する（名古屋吃驚生）

▼もう歌劇拔粹や和曲を聞いて喜こんで居る時代は過ぎたと思ふ此の意味で日本交響管絃團のレコードは我々を大喜せしめたものだ又あの樣なレコードを出して欲しい尙その節レベルもその時分の如き親切をもつて（玄鳥好生）

▼江戸小唄の美之助さん愈々聲が冴えて來ましたれ實際江戸小唄の人氣を一人り背負つて立つてゐる尙此の上の努力を（某生）

▼童話浦島太郎は確に新機軸を出してゐる童話の中に唱歌、鳴物管絃樂をふんだんに使つてあるがそれが又大變面白く聞える子供達はもう大喜びしてゐる（京都S生）

▼書生節の唄ひ手が今少し何とかなりませんか寺井さんも良いけれど映畫説明の伍東さんと云ふように又代つた人に願へませんか幾ら良い人でも同じ人では終に飽きが來ます（大阪千日生）

▼公會堂ですつかり僕を魅了してしまつたロザノフ夫人の驚を今又レコードで聞きました何度聞いてもふるひつきたい樣だ唯悲しいかなプロであるため全部買へないまあ年内にはと思つてゐる（大阪市外有川爲四郎）

▼延壽さんの聲を永い間聞きませんがもう聞けそうなものですれツバメさん又明烏と云つた傑作を出して下さい（名古屋延壽黨）

▼吉住の師匠の越後獅子、松の緑の二曲は結構な位ひの出來榮へで只々感歎の外はありません、世はラヂオ〳〵とやかましく騒いで居りますが、こんなレコードを聞くとても〳〵ラヂオは足下へもよりつけません、どうか清元家元のレコードも一日も早くお出し下さい（大阪堺筋町人生）

▼僕は映畫をより好きに思つてゐるものです又映畫伴奏を聞いて知らず〳〵のうちに、低級ですが音樂に趣味を持ちだしました今度の日東管絃團のインデアンワーソンは最も好きな曲の一つでした又あんな映畫伴奏的なレコードをお願ひします（横濱映畫フワン）

▼俺は綾太郎の涙花節が大好きだ曾我兄弟は迚も良い矢張り毒婦ものよりこんな方が希望だ（大阪市東區瓦町涙曲好生）

▼ヴアイオリン獨奏のよいレコードが出ませんれ又田中平三郎さんのセレナードの樣ないゝものを聞きたいものですれ（TK生）

大正十四年十二月廿五日印刷
大正十五年一月一日發行
（毎月一回發行）
（定價一部金拾錢郵稅共）
▽半年分前納郵稅共金五拾錢
▽壹ヶ年分前納郵稅共金九拾錢
▽雜誌は總て前金御註文の事
▽郵券代用は一割增
大阪市西成區粉濱町四五九
發行兼編輯　橋　正直
印刷人
堺市車之町一三
印刷所　日東印刷所
大阪市住吉區住吉神社南門前
發行所　日東タイムス社
電話（戎長一〇五〇番　住吉三七一一番）

# ツバメ印 ニツトーレコード 總目錄

## 語學レコード

ロンドン大學教授 文部省英語教授顧問 ハロルド、イーバーマ教授

780 赤特 ニューローレル リーダー第一卷（全九枚ノ內三枚）
781 赤特
782 赤特

789 赤特 ニューローレル リーダー第二卷（全八枚ノ內三枚）
790 赤特
791 赤特

794 赤特 ニューローレル リーダー第三卷（全五枚ノ內二枚）
795 赤特

796 赤特 ニューローレル リーダー第四卷（全四枚ノ內二枚）
797 赤特

798 赤特 ニューローレル リーダー第五卷（全四枚ノ內二枚）
799 赤特

自 834 赤特 至 841 赤 English Intonation（正確なる英語の抑揚）（八枚續）

自 720 赤特 至 729 赤 （文部省推薦）ニュークラウン リーダー第一卷（十枚）

自 730 赤特 至 743 赤特 （文部省推薦）ニュークラウン リーダー第二卷（十四枚）

自 744 赤特 至 753 赤 （文部省推薦）ニュークラウン リーダー第三卷（十枚）

自 754 赤特 至 759 赤特 （文部省推薦）ニュークラウン リーダー第四卷（六枚）

自 760 赤特 至 765 赤特 （文部省推薦）ニュークラウン リーダー第五卷（六枚）

自 1543 赤特 至 1549 赤 （文部省認定）バーマ英語會話上達法（七枚續）

1837 赤特 英語の母音 下上 ルイ、マルシヤン教授

自 1510 赤特 至 1529 赤 Le Premier Livre de Français ou la famille Dupont. 佛蘭西語の初步（全二十枚續）

## 獨奏

サキソホン

1387 黑 ホツたれ 前野港造

1505 黑 スエガツズ（文部省推薦）オールドブラックジョー

1663 黑 私の太陽 宵待草 クラリネツト 進五郎

1574 黑 （文部省推薦）Angel's Serenade.（エンゼルス、セレナード）Cavatina.（カバチナ）

シロホン 亀井湘南

1707 赤 軍艦マーチ 銀鈴

1708 赤 雀の囀り

1751 赤 越後獅子 下上

1861 赤 ウ井リアムテル 下上

ヴアイオリン

955 黑特 ロコツル ブルメステル

1814 赤 子守唄 ミヌエツト 田淵吉造

249 黑 オールドフオルクス アツトホーム ホームスウイートホーム 杉山長谷夫

1324 黑 セレナーデ スフインクソング 田中平三郎

925 黑 トロイメライ、ラスト、ローズ、オブ、サンマー 吉田吉之助

945 黑 ユモレスク ストウイートホーム

1064 黑 ジョスランの子守唄 スコットランドの青い鐘

570 黑 ゼ、ミゾリーツルツ オー、マザーアイムワイルド 遠藤和一

九才の琴家 トーリヤポツパ

1417 黑 （文部省推薦）GAVOTTE.（ガボット）AIR VARLE.（エアバリー）

1418 黑 ANDANTE RELIGIOSO.（アンダンテレリギオソ）

1573 黑 （文部省推薦）NORMA.（ノーマ）MENUET.（メヌエット）

1736 黑 Des Schwarze Domino. Marche Des Mandolinistes. 平井毅山 橋田崎信次 胖

1386 黑 絃樂四重奏 カバレリア、ルスチカナ ハイドンのミヌエット

フランセスコフーサリオ

1479 黑 チゴイネルワイゼン

ピアノ

842 黑 ベートーベン作 月光曲 上下

ウ井リーバルダス

1098 黑 （文部省推薦）春の糸 績 光 女唄

1506 黑 1507 黑 （文部省推薦）ピアノの組織的練習とその實例 三 三

1557 黑 幻想的即興樂（ショパン）ワルツ（嬰ハ調）

澤田柳吉

1029 黑 ハンティングソング ボロネイズ

1089 黑 バセティックソナタ ワルツ

1410 1411 黑 月光の曲 三 三

バウルシヨルツ

1197 黑 （文部省推薦）ヘツラー作 タランテラ、舞

1388 黑 （文部省推薦）土耳古マーチ（ベートベン） 雲雀（グリンカ）

1713 黑 舞踏會の招待

ハーモニカ

末川勇 末川英二

312 赤 軍艦ハーフ、マーチ ライト

313 赤 君がマーチ 代集マーチ 第三番

山中壽一

1022 赤 聯隊の愛しの舞姫

1150 赤 ケーキルチー アルの女

1828 赤 彼女の微笑 凱旋ポルカ

松尾金五郎

21 赤 戰捷ウイリアムテル 旗の下に

965 赤 トロバトーレ ホイザー

1167 赤 即位行進曲 カルメン

1367 赤 元祿後花路 越後獅子

川口章吾

1234 黑 （文部省推薦）サンチヤゴ、ワルツ ドリゴのセレナーデ

1278 黑 椿姫 上下

1312 黑 オリエンタルダンス パニツシユーク

1389 黑 天國と地獄の夜曲

■松尾太夫 文字兵衛菊三郎■
自1230 至1232 黒 釣女（一段）自一 至八
至662 黒 乘合船（一段）自一 至一〇
自1316 至1319 黒 （文部省推薦）清宗（一段）自一 至八
自1379 至1382 黒 將門（一段）自一 至八
自522 至524 黒 松島（一段）自一 至六
■松尾太夫 文字兵衛梅治■
自910 至915 黒 關の扉（一段）自一 至三
自1051 至1056 黒 報猿（一段）自一 至三
自1832 至1835 黒 三保の松（一段）自一 至八

■竹本錦太夫 糸 豊竹古靭太夫■
1304 1305 赤 三勝半七酒屋の段 三四
1312 赤 三十三間堂 下上
1399 赤 朝顔宿屋 下上
1451 赤 （文部省推薦）太功記十段目 下上
1633 赤 二十四孝 下上
1723 赤 新口村 下上
■豊竹古靭太夫 糸 鶴澤清六 ツレ 豊澤猿太郎■
自1220 至1229 黒 野崎村（一段）自一 至五
自1611 至1618 黒 壺坂（一段）自一 至六
自1840 至1348 黒 太功記十段目 自一 六
■豊竹古靭太夫 三味線 豊澤新左衛門 竹本錦太夫 ツレ 竹本靜太夫 琴、胡弓 竹澤芳之助 竹澤團六■
自663 至675 黒 阿古屋琴責の段（一段）自一 至二

■竹本越登太夫 糸 鶴澤淺造 ツレ 鶴澤清丸■

1028 赤 朝顔宿屋（琴唄）下上
■竹本錦太夫 竹本八十太夫 竹本越登太夫 豊竹つはめ太夫 糸 鶴澤清六 豊竹古靭太夫 豊竹本靜太夫 豊竹島太夫 豊竹本越名太夫 豊竹辰太夫■
1110 1119 黒 忠臣藏茶屋場（一段）自一 至一〇
■竹本越登太夫 糸 鶴澤淺造■
369 赤 中將姫 下上
346 347 赤 （文部省推薦）先代萩 三四
441 赤 朝顔日記大井川 下上
926 赤 新口村 下上
927 赤 新口村さわり 下上
600 赤 玉藻前三段目 下上
125 赤 明烏 下上
1188 赤 明烏奥 下上
650 赤 三勝酒屋の段 下上
807 赤 太功記十段目 下上
808 赤 太十さわり 下上
767 赤 阿波鳴戸 下上
319 赤 廿四孝 下上
320 赤 戀十三吉子別れ 下上
967 赤 柳（三十三間堂）下上
979 赤 鈴ヶ森 下上
988 赤 時雨の炬燵 下上
1031 赤 壺坂 下上
1066 赤 野崎村 下上
1151 赤 八陣本城 下上

1199 赤 朝顔日記（さわり）下上
1279 赤 寺子屋 下上
1333 赤 日吉丸 下上
1123 赤 新口村 下上
1489 赤 白石噺 コレ此廓へヨリぬるゝ計りなりマテ
■豊竹古靭太夫 糸故 鶴澤清六■
1593 赤 三吉愁歎 下上
自404 至414 黒 合邦ヶ辻下の卷（一段）自一 至三
自615 至622 黒 本藏下屋敷（一段）自一 至六
自80 至82 黒 御所櫻三段目（一段）自一 至八
自90 至95 黒
自335 至341 黒 加賀見山又助内（一段）自一 至四
自83 至89 黒
自151 至155 黒 寺子屋（一段）自一 至三
自222 至227 黒 忠六（一段）自一 至三
■竹本錦太夫 糸 竹澤團六■
905 906 赤 白石噺揚屋の段 三四
998 赤 日吉丸 下上
■豊竹古靭太夫 糸故 鶴澤清六 ツレ 鶴澤芳之助■
自474 至484 黒 （文部省推薦）堀川廻し（一段）自一 至三
■竹本靜太夫 糸 鶴澤芳之助■
951 黒 逆櫓 下上
■豊竹つはめ太夫 竹本越登太夫 糸 豊竹辰太夫 鶴澤芳之助■
257 258 赤 掛合淨瑠璃 千本櫻道行 三 五
332 353 赤 掛合淨瑠璃 橘辨慶 三四
■豊竹古靭太夫 糸 鶴澤芳之助■

自882 至889 黒 双蝶々引窓の段（一段）自一 至六
■糸 豊竹つはめ太夫 竹本越登太夫 竹澤團六 鶴澤淺造 豊竹辰太夫 鶴澤友衛門 竹澤團二郎■
1270 1272 赤 掛合淨瑠璃 妹脊山道行（櫻の小田卷）三四 五六
■豊竹駒太夫 糸 鶴澤才治■
1453 至1460 黒 三勝半七酒屋の段（一段）自一 至六
自1640 至1650 黒 時雨の炬燵（一段）自一 至六
■竹本越登太夫 團六 團次郎■
1893 1894 赤 堀川猿廻し 四二
■豊竹昇之助■
206 赤 阿波鳴戸 下上
207 赤 紙治炬燵 下上
208 赤 太功記十段目 下上
215 赤 三勝酒屋 下上
■豊竹昇之助■
270 赤 壺坂 下上
283 赤 三十三間堂 下上
334 赤 合邦 下上
■豊竹團司■
977 赤 壺坂 下上
■豊竹呂昇 ツレ 金昇■
1739 赤 日堀川吉丸 下上
34 赤 堀川猿廻しさわり 二一
35 赤 堀川猿廻し 四三
30 赤 朝顔宿屋（琴唄）下上
33 赤 野崎村（連引）下上
21 赤 三勝酒屋 下上

豐竹呂昇ッレ金昇

25 赤 阿波鳴戸 下上
26 赤 先代萩 下上
27 赤 三十三間堂 下上
28 赤 朝顔日記大井川 下上
29 赤 玉藻前三段目 下上
31 32 赤 壺坂 三

## 歌舞伎

實川延若 市川荒太郎 東儔三郎 外大一座

514 515 黑 西郷と豚姫 三四

實川延若 外大一座

1241 1242 黑 彦山權現誓助剣 三四
126 黑 鎌腹 下上

市川右團治 市川新舛 外大一座

159 160 161 黑 梅川忠兵衛封印切 三四

426 427 赤 橘供養 梵字文覺那智山滝の場 三四
1757 1758 紫 妹背山御殿 三四

實川延若 市川荒太郎 東儔三郎

淺尾大吉 坂東壽三郎

539 540 541 黑 三日月次郎吉 三四
542 543 黑 義經千本櫻 いがみの權太 三四
544 545 546 黑 大盃 内藤紀伊守邸大廣間の場 三四
547 548 黑 おつま八郎兵衛怨みの鮫鞘 三四

片岡我童 大一座

424 425 黑 松平長七郎の場 三四

尾上松之助一座

451 452 453 黑 楠公秋別 三四

嵐璃德一座

19 20 赤 宗教劇 日蓮 龍の口御難の場 三四

實川延若 嵐吉三郎 中村雀右衛門 實川鴈童 中村鴈治郎

681 682 683 684 685 686 687 黑 忠臣藏 茶屋場 三四

尾上卯三郎 尾上喜久太郎 大一座

681 682 黑 菅原車曳の場 三四

尾上菊五郎 大谷友右衛門 他大一座

558 559 560 黑 御所の五郎藏（五條坂出逢の場） 三四
561 562 563 黑 髮結新三（深川富吉町髮結新三内の場） 三四
564 565 566 黑 めの組の喧嘩（焚出喜三郎内の場） 三四
567 568 569 黑 辨天小僧（濱松屋店先の場） 三四

澤田正二郎 大一座

821 822 赤 前篇 國定忠治 赤城天神山不動の森の場 三四
375 376 赤 國定忠治 山形屋乘込の場 三四
509 510 赤 續國定忠治 山形屋强請の場 三四
537 538 黑 箕輪心中 三四
891 892 893 黑 月形半平太 眞葛ヶ原の春雨 木木の夕 三四

## 新派劇

（文部省推薦）

458 459 460 461 462 463 黑 大菩薩峠 初編 芝新錢座浪宅の場 次編 庵原村古寺の場 三四

中村鴈治郎 中村福助 外一座

1080 1081 黑 史劇城山の月 可愛ヶ嶽の場 洞窟の場 三四

416 417 418 黑 藤十郎の戀 三四

397 398 399 黑 心中天網島（紙屋治兵衛内の場） 三四

850 851 852 黑 熊谷陣屋 三四

新聲劇幹部

470 471 472 473 赤 白蓮 初編 紅蓮 次編 三春家管理人事務室 三春家蓮池の畔 三四

和泉浦糸子 松浪義雄

628 629 赤 前編金色夜叉 三四
581 582 赤 七年後の金色夜叉 三四

松浪義雄 和歌浦糸子 都一男 中村芝雀

858 859 860 865 866 赤 己ヶ罪 三四

河合武雄 武田正憲 外大勢

292 黑 思ひ妻 上下
293 294 黑 己が罪 三四

曾我廼家五郎 大一座

456 457 赤 心の脫線 三四

## 舞踊雜曲

454 455 赤 百行の基 三四
529 赤 短慮の及 上下
991 992 993 赤 震災餘聞 情火 三四

612 赤 若き日の影 上下

638 639 赤 曉の鐘 三四
928 929 黑 命の衝立 三四

帝劇女優

919 920 黑 太郎冠者作 ドッチャダンネ 三四
994 赤 地震に因みて 武藏野の狸 上下
1691 黑 ハテナ？ 三四

## 長唄夜會

1181 1182 赤 大正十三年度 浪花新町 踊 三四

新町廓名妓連

大阪南地名妓連

1178 1179 1180 赤 大正十三年度 あし べ 踊 三四
1530 1531 1532 赤 大正十四年度 あし べ 踊 三四

祇園歌舞會名妓連

1553 1554 1555 黑 都 なぞり 三四

北陽名妓連

1214 1215 1216 赤 大正十三年度 浪花北陽 踊 三四
1583 1584 1585 赤 大正十四年度 浪花 踊 三四

本派本願寺奉仕局知堂　瀧川寛了

1793 赤　御文章　下上
1794 赤　眞宗西派　正信偈　下上
1795 赤 1796 赤　經文　御和讃　三四
1797 赤　御俗姓　二三

生一左兵衛

633 黑　羽衣　下上
1236 黑　天葛城　鼓
1714 赤　杜若　玉葛
624 黑　船辨慶　下上
623 黑　葵上、砧
46 黑　松風　下上
1038 黑　勸進帳　下上
1435 赤　鉢木　下上
1569 黑　隅田川　下上
1678 赤　三井寺　下上
768 黑　石橋　下上
1865 赤　熊野　下上

觀世流宗家　觀世元滋

1400 特黑　（文部省推薦）高砂　下上
1401 特黑　羽衣　下上
1402 特黑　（文部省推薦）猩々　下上
1500 特黑 1501 黑　景清　三四
1502 特黑　鐵輪　下上

（文部省推薦）

1403 特黑 1404 黑　松風　三四
1431 特黑　（文部省推薦）葵上　下上
1432 特黑　竹生島　下上
1433 特黑 1434 黑　（文部省推薦）蟬丸　三四

男爵田中義一氏

1289 黑 1290 黑　護國の礎　三四

陸軍中將　權藤傳次氏

1245 赤 1246 赤　排日問題國難に面して　三四

子爵　後藤新平氏

833 赤　少年團に就て　下上

神田伯山

995 黑 996 黑　講談大正震災記　三四

清水次郎長（大瀨半五郎卷）（全八枚）

自 1575 黑 至 1582

桂小文治

969 赤　大震災遭難物語　下上

花月亭九里丸

778 赤　滑稽節　排日約問題論

桂家殘月

1130 赤　御成婚紀念　東宮殿下の卷　下上
1131 赤　御成婚紀念　眞子女王殿下の卷　下上
1508 赤 1509 赤　御銀婚式紀念　聖上陛下の卷　國母陛下の卷

特黑レーベル　定價販賣　金貳圓五拾錢

黑レーベル　金壹圓六拾錢

語學レコード　定價　兩面壹枚ニ付キ販賣　金壹圓貳拾錢

赤レーベル　金壹圓四拾錢

紫レーベル　金八拾錢

ニットー號蓄音機の型錄は各蓄音器店に御請求下さい

# 謹賀新年

大正十五年一月元旦

大阪市住吉區上住吉町住吉神社南門前

**日東蓄音器株式會社**

電話（戎長一二一一番　戎長一〇五〇番　住吉三七一番）

大阪市東區備後町二丁目一番地

**日東蓄音器大阪營業所**

電話本町一四八〇番

東京市京橋區銀座一丁目五番地

**日東蓄音器東京營業所**

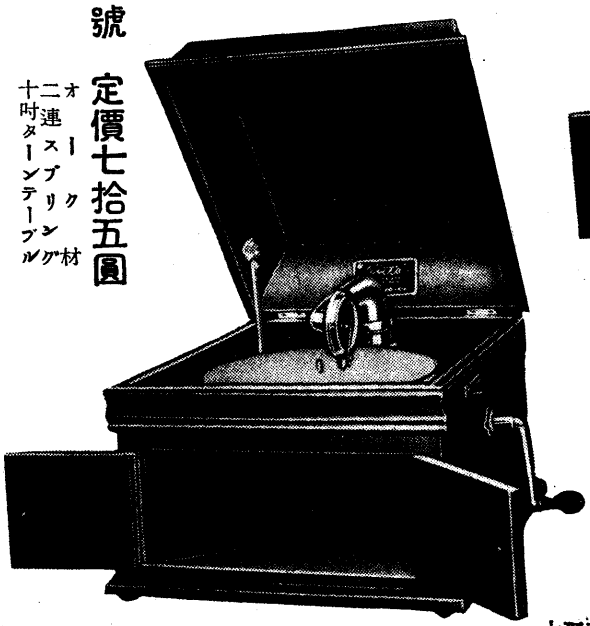
電話銀座六〇五九番

福岡市中島町四六

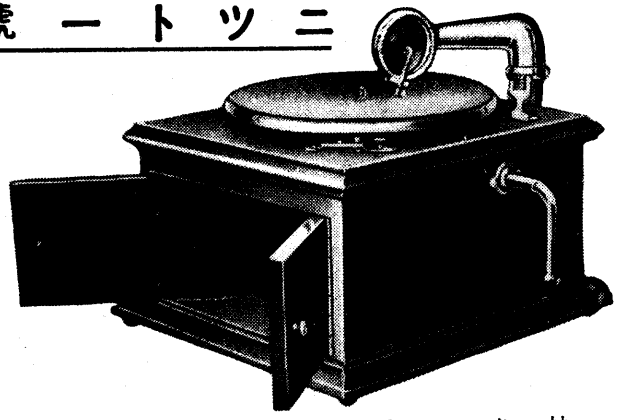
**日東蓄音器九州營業所**

電話一一二八番

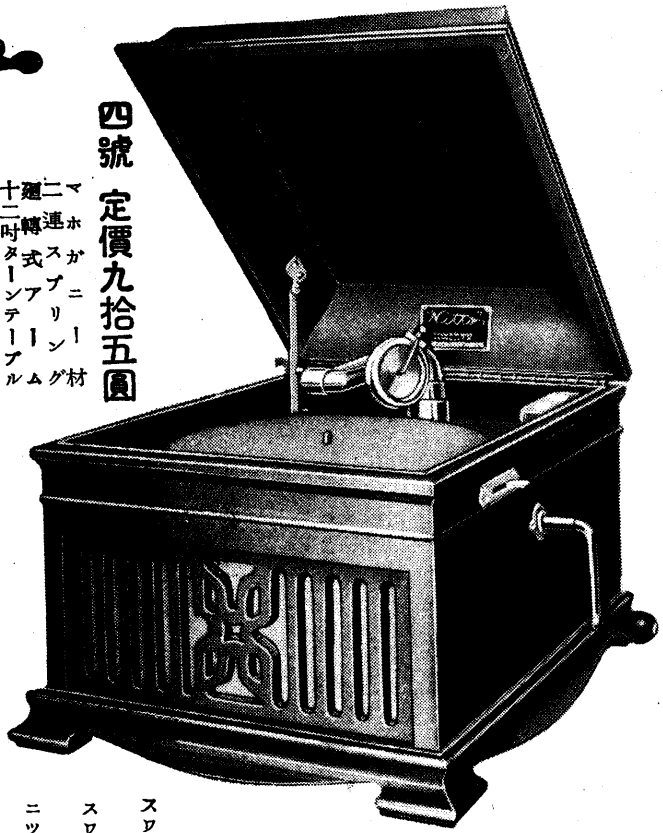
# ニツトー號蓄音機



三號　定價七拾五圓
オーク材
二連スプリング
十吋ターンテーブル

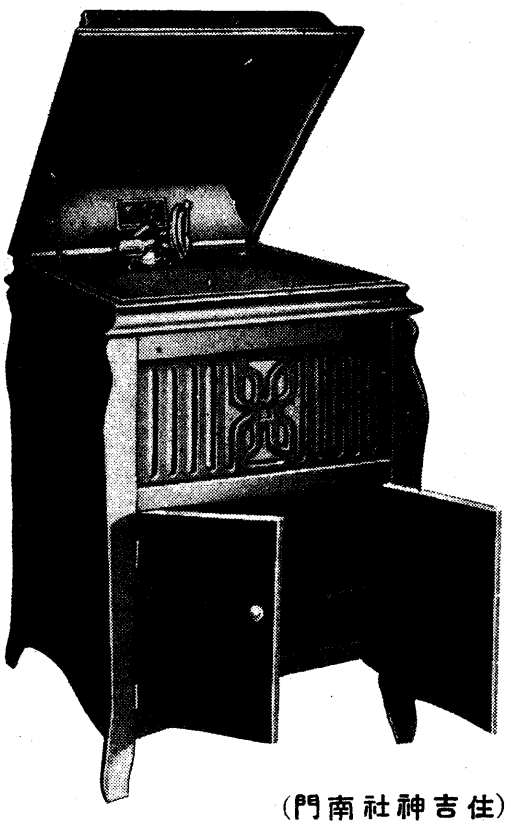


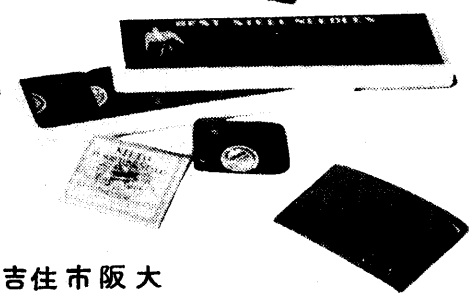
二號　定價五拾五圓
オーク材
二連スプリング
十吋ターンテーブル



四號　定價九拾五圓
マホガニー材
二連スプリング
廻轉式アーム
十二吋ターンテーブル

五號　定價百參拾圓
マホガニー材　二連スプリング
廻轉式アーム　十二吋ターンテーブル





スワロー印純鋼針
赤鑵二百本入金五十錢
スワロー印三角竹針
一袋百本入金三十錢
ニツトータングステン針
一袋十本入金五十錢

大阪市住吉區上住吉町（住吉神社南門）

日東蓄音器株式會社

# 觀世流宗家

# 觀世元滋先生吹込

## 第五回番謠レコード

# 高砂

全一番 五枚續

定價金拾貳圓五拾錢

既發賣番謠

| | |
|---|---|
| 熊野 | 全一番 九枚續 |
| 田村 | 全一番 六枚續 |
| 俊寛 | 全一番 六枚續 |
| 弱法師 | 全一番 六枚續 |


東京專屬代理店
シバ蓄音器商會
東京市浅草区十二番地
電話 浅草 七七七七


## 觀世流謠曲音譜會發賣

本番謠レコードは全國各蓄音器店にて取次販賣す